

## 8. 慢性副鼻腔炎に対するブロンカズマ・ベルナによるエアゾル療法

島田 均、長江大介、清野 仁、清水元博、古内一郎（独協医大耳鼻科）  
木谷孔保（独協医大臨床共同研究室）

反復性の上気道感染症や慢性副鼻腔炎に対して、Broncasma Berna が皮下注による免疫療法剤として使用されており、その有用性が報告されている。今回我々は、慢性副鼻腔炎に対して超音波 Nebulizer を用い、Broncasma Berna を噴霧しその効果について検討した。さらに投与前後の宿主の感染防御能についても検索し、併せてその成績についても報告する。

対象は21～49歳の慢性副鼻腔炎患者で鼻茸がない男5例、女5例、計10例であり、急性発熱性疾患や腎炎のある患者は除外した。

投与方法は、エアゾル発生装置として超音波 Nebulizer（オムロンNE-U10）を用い、流量は1分間2 mlとし、Broncasma Berna の用法用量は、原液1 ml（1 A）を生理的食塩水に溶解し、12mlに希釈し、1回6 ml（ $\frac{1}{2}$ A）を上記流量で3分間噴霧投与した。原則として1日1回、週2回噴霧し、投与期間は8週間とした。

評価時期は4週後、8週後、とし、評価は投与後の自覚所見、他覚所見によっておこなった。

臨床検査項目は皮内テスト、鼻汁中細菌培養、鼻汁スメア、副鼻腔X線検査、血液一般及び生化学検査、尿検査、T cell、B cell百分率、Helper T., Suppressor T-cell, Fibronectin 等についてBroncasma Berna 投与前後に施行した。

この治験成績をまとめてみると

- ① Broncasma Berna の Nebulizer の治療効果は、自覚所見改善度は30%で、他覚所見は50%の改善率がみられた。
- ② 臨床的にはそれほど著明な効果が得られなかったが、T-cell や Fibronectin で投与後の有意な上昇が認められた。
- ③ 副作用や臨床検査上異常値は認められなかった。

脱落症例が多く、総合判定には至らなかったが、②の結果や、きわめて少数例において、白血球分画上で単球の上昇をみたことなどから、Broncasma Berna の Nebulizer 療法が、皮下注同様に有効であるとの印象をうけた。